

教科目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を養う。

1 学期 主な学習内容 (1 4 時間)	2 学期 主な学習内容 (1 9 時間)	3 学期 主な学習内容 (1 2 時間)
歌唱 校歌 (斉唱) (3 時間) 「浜辺の歌」 (2 時間) 合唱祭の選曲 (2 時間) 合唱祭学年合唱 「大切なもの」 (3 時間) 鑑賞 「春」 (2 時間) 楽典 音符、休符、階名、譜表、 いろいろな記号 (2 時間)	歌唱 合唱祭の取り組み (8 時間) 「赤とんぼ」 (3 時間) 鑑賞 箏曲「六段の調べ」 (2 時間) 日本の民謡 (2 時間) 楽典 音符、休符、階名、音名、 譜表、いろいろな記号 (1 時間) 和楽器 箏 (3 時間)	歌唱 合唱祭の取り組み (4 時間) 卒業式合唱・校歌斉唱 (3 時間) 鑑賞 「魔王」 (1 時間) アジアの諸民族の音楽 (1 時間) 楽典 音符、休符、階名、音名、 譜表、いろいろな記号 (1 時間) 創作 リズムアンサンブル (2 時間)

評価の観点と規準 (各観点の割合は、全て達成率 100%で統一する。)

	評価の観点 (1 学期より抜粋)	評価の方法・資料	評価方法の基準と「概ね B 評価」等の設定 (行動目標)
I 知識・技能	「校歌」 音程やリズムをしっかりと りとり、正しい歌詞で 歌うことができる。	【全教科共通】 ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・実技テスト	・定期テストは知識、技能に関する問題において、定着率をみる。 ・実技テストは A, B, C で評価する。 A=音程やリズムが正確にとれ、歌詞をしっかりと覚えて歌うことができて きている B=少し間違えても曲の半分以上は歌えている C=音程がとれていなく、歌詞を忘れている で表記する。
II 思考・判断・表現	「校歌」 色々な記号を理解し、 実際に歌で表現する ことができる。	【全教科共通】 ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・実技テスト ・表現の工夫 ・鑑賞プリント	・定期テストは思考、判断力、表現力に関する問題において、 定着率をみる。 ・実技テストは A, B, C で評価する。 楽譜に書いてある表現記号を意識し、表現豊かに演奏できているか A=とても表現豊かに演奏できている B=ある程度意識が感じられる演奏である C=全く感じられない演奏である で表記する。 鑑賞プリントは 5 段階で評価する。 5=感想の内容がより細かくいろいろな視点で書かれている 4=感想の内容が細かく記述されている (3~4 点) 3=感想の内容が 1~2 点のことしか書かれていない 2=感想が一言しか書かれていない 1=感想が白紙 (5 点以上) で表記する。
III 主体的に学習に取り組む態度	「校歌」 姿勢正しく、大きな声 ではきはきと発音して 歌うことができる。	【全教科共通】 ・「知識及び技能」の 観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の 観点の評価 【各教科の方法・資料】 ・自己評価 ・提出物 ・授業観察 ・定期考査	【全教科共通】 ・「知識及び技能」の観点の内容について、指示に従ってしっかり行おうとし たり、学ぼうとしたりする。 ・思考力・判断力・表現力等」の観点の内容について、指示に従ってしっ かり行おうとしたり、学ぼうとしたりする。 ・授業、課題に意欲的に取り組み、意見を積極的に発言しようとする。 【各教科 独自の方法】 ・実技テストは A, B, C で評価する。 A=良い姿勢で工夫しながら、歌っている B=ある程度、聞こえる声で歌っている C=聞き取れない位の声で歌っている で表記する。